

# 潜在水俣病の発掘へ

熊本、鹿  
児島両県

# 住民十万人を対象に

## 不知火海沿岸 初の一斉検診実施

不知火海沿岸の有機水銀汚染の実態を明らかにする初の住民一斉検診が四日の熊本県を皮切りに熊本、鹿児島両県にまたがる沿岸住民約十万人を対象に始まる。

### まずアンケート

来月四  
日から

熊本県は二十七日、水俣病の一斉検診(正式には「水俣湾周辺地区健康調査」)の第一次アンケート調査を十月四日から開始することを決めた。これに先立ち、二十九日午前十時三十分から対象一市五町(水俣市、芦北町、津奈木町、田浦町、竜ヶ岳町、御所浦町)の長や医師会長、保健所長らを熊本水前寺共済会館に集めて検診実施の方法について打ち合わせる。

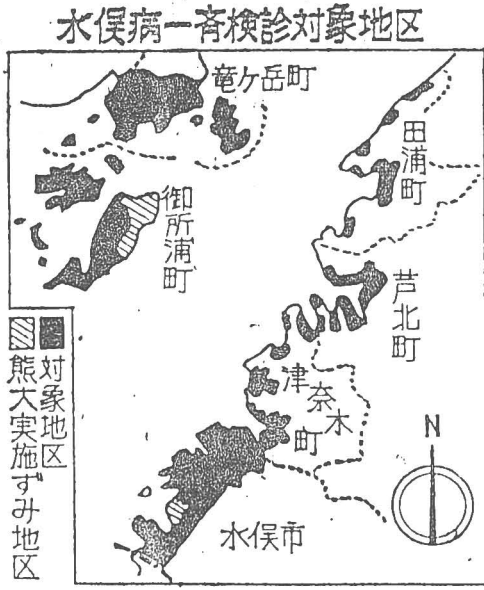
健康調査の対象は、御所浦(鹿

児島)を除く、竜ヶ岳町の全住民と残り四市町の不知火海沿岸住民合わせて五万五千七百六十六人(うち漁民六千七百五十六人)で、これは六市町全人口の六・三割に当たる。熊本第二次水俣病研究班が先に行なった水俣市湯堂、月浦、出月三地区、御所浦町鹿口地区は除かれた。

アンケート調査は県が熊本や環境庁のものを参考にしたもので、四十二項目の設問からなっている。この内訳は「手がふるえるか」「口がもつれたり、舌がしにくいと感じたことがあるか」「左右両側にあるものに気がつかなかったり、ぶつつかったりするか」などの健康状態についての設問が三十四項目、「この十一年間にとれぐらい魚を食べたか」「家族に患者がいるか」などの疫学調査のものが四項目、乳幼児に関するものが四項目ある。

このアンケートを各市町が配

布、十月中に回収してコンピューターでスクリーニングし、疑わしい者については来年二月、郡市医師会医師団で二次検診するが、受診者はアンケート対象者の三〇割とみている。さらにこのなかの要精



- 対象地区
- ▽水俣市二九、〇八七人(七六三割)
  - ▽津奈木町四、四三七人(六九・八割)
  - ▽芦北町五、六〇三人(二五・四割)
  - ▽田浦町四、七三三人(六四・一割)
  - ▽竜ヶ岳町七、二六六人(二〇〇割)
  - ▽御所浦町四、六五〇人(七一割)
- 熊大実施すみ地区

密検査者については水俣市立病院と上天草病院で検査するが、その数は全体の二割、二百五十四人程度とみている。予算は七百四十万円。

一方、鹿児島県でも二十七日から始まる九県協議会に総額四百十万円の一斉検診費を提案、十一月中旬にもアンケート調査を行なう。

対象は二市三町(出水、阿久根市、出水郡長島町、東町、高尾野町)の四方四千三百人。アンケート内容は熊本県とほぼ同じものになるといふ。

この結果、不知火沿岸の約十万人を対象とする大掛かりな水俣病潜在患者の発掘調査が熊本、鹿児島両県の手で進められるわけで、この調査で同海域の有機水銀汚染の実態が明らかになると同時に、潜在的な患者が見つかるものと期待されている。

なお二十七日までの水俣病認定申請者は熊本百三十一人、鹿児島九人、合計百三十九人となっている。各市町ごとの検診対象者(県関係)次の通り。